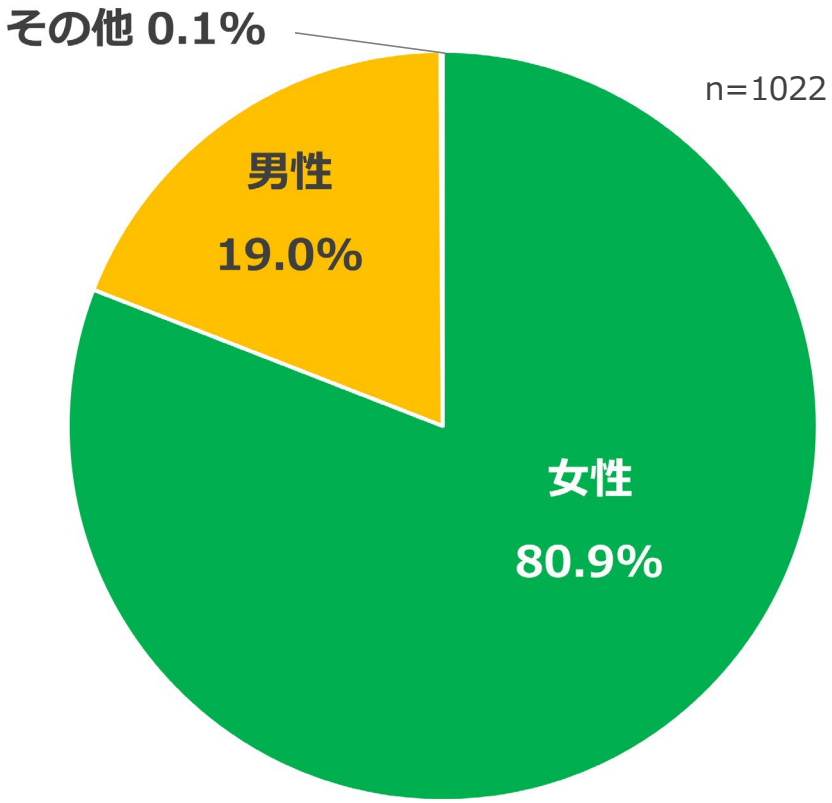
日本財団ウクライナ避難民支援
アンケート結果
（第5回）

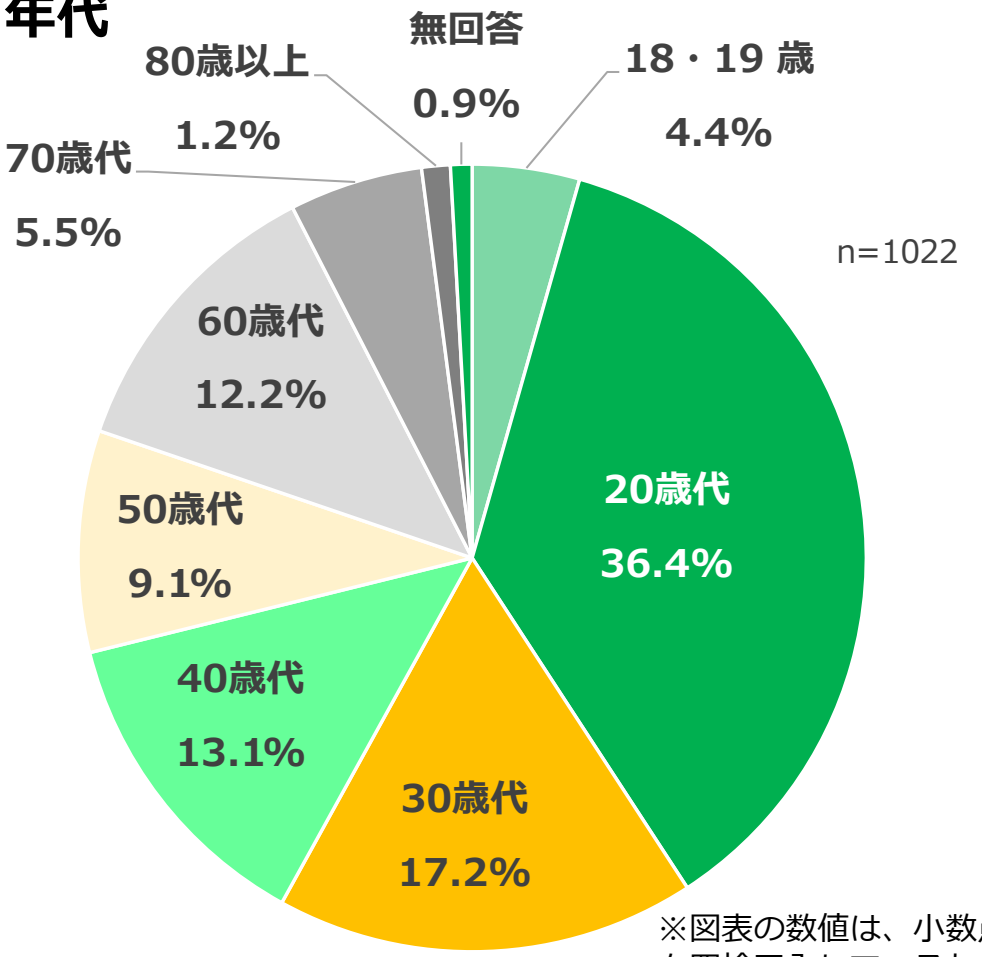
アンケート結果：概要

男女比

※アンケート回答者の男女比。日本財団の支援対象者の男女比は男性：25%、女性75%



年代

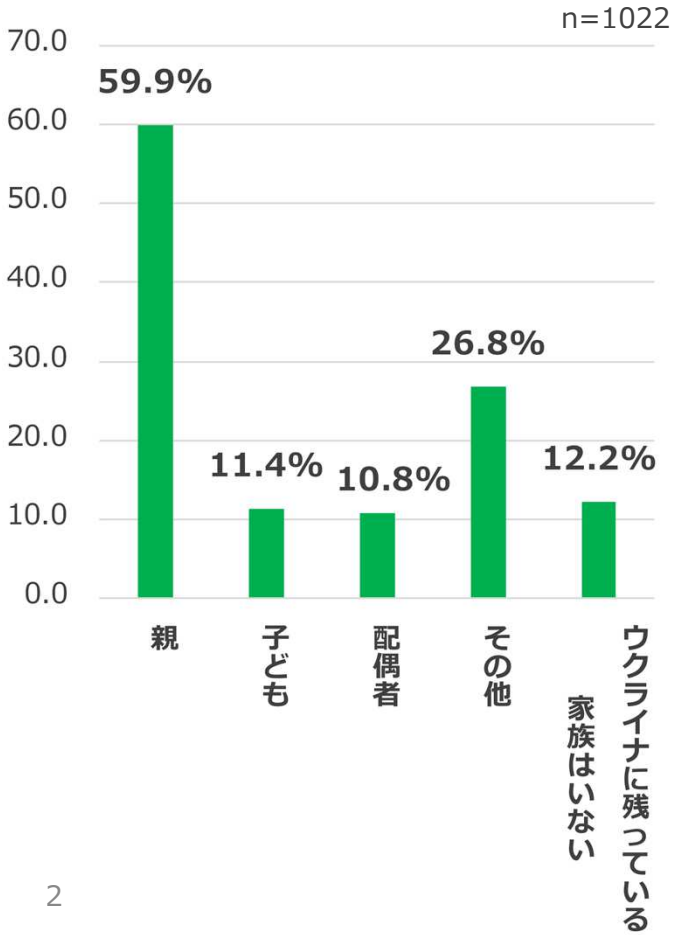


※図表の数値は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100%とはならない。

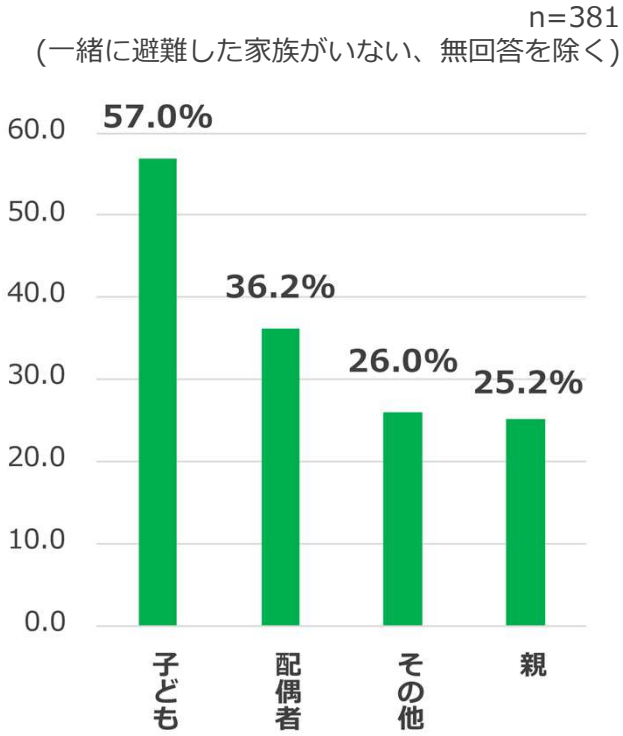
アンケート対象：日本財団の支援を受けている18歳以上のウクライナ避難民
アンケート収集数：1,022人　実施期間：2023年11月15日～12月31日

アンケート結果：家族の状況

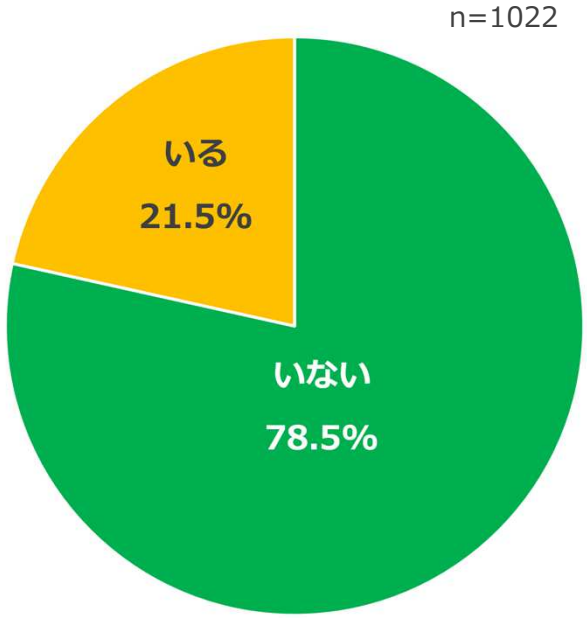
ウクライナに残っている家族



一緒に避難した家族

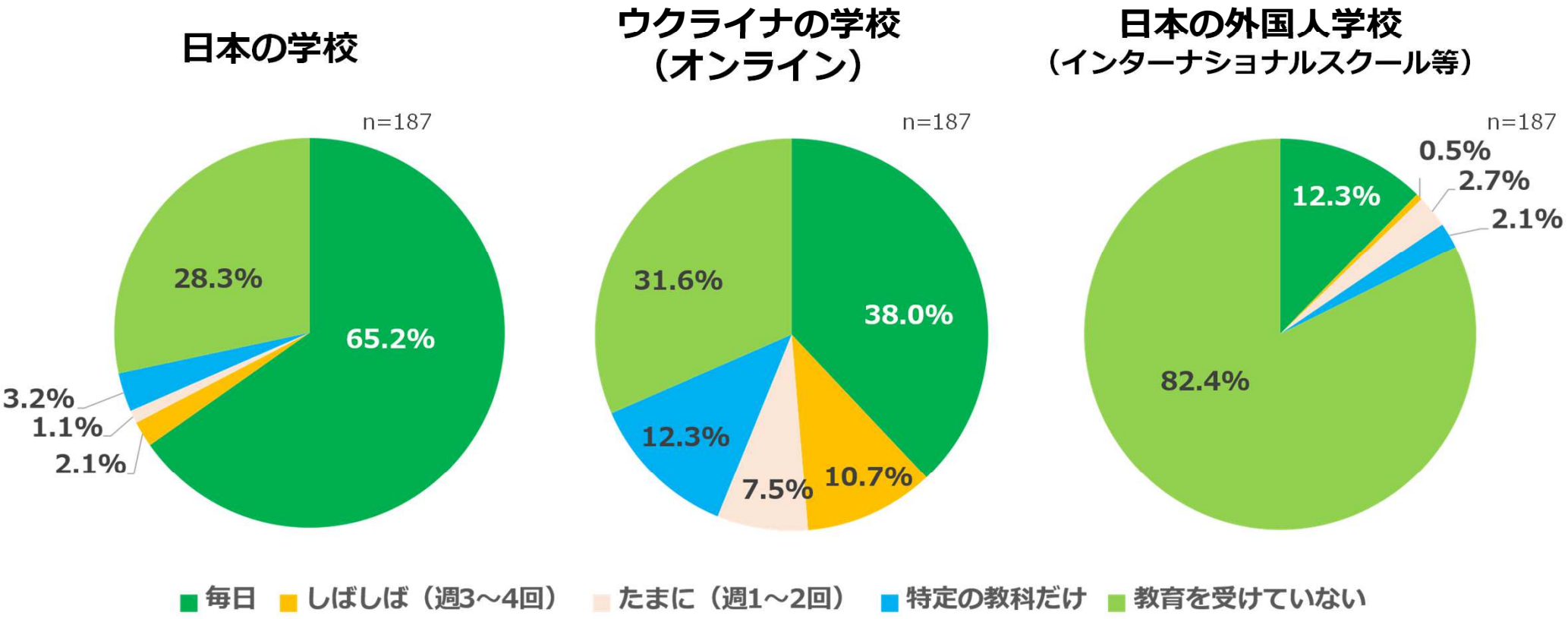


17歳以下の子どもと一緒に避難しているか



アンケート対象：日本財団の支援を受けている18歳以上のウクライナ避難民
アンケート収集数：1,022人　実施期間：2023年11月15日～12月31日

アンケート結果：子どもの学校教育の状況

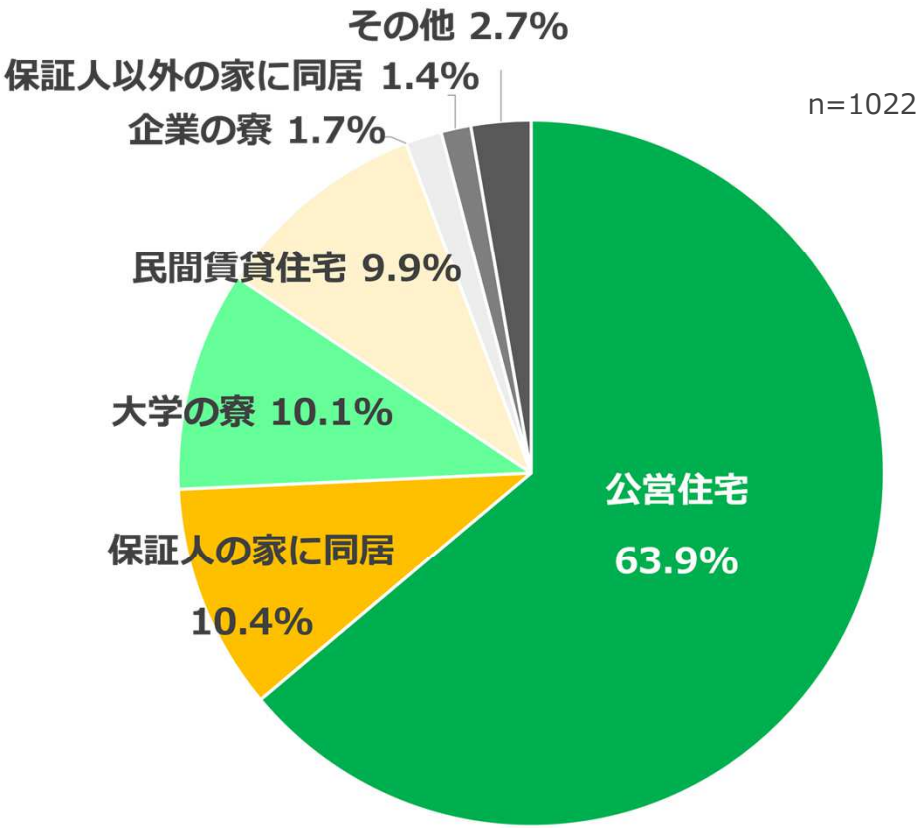


※図表の数値は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、
合計しても必ずしも100%とはならない。

アンケート対象：日本財団の支援を受けている18歳以上のウクライナ避難民
アンケート収集数：1,022人　実施期間：2023年11月15日～12月31日
※上記対象者のうち、子どもが就学年齢（6歳から17歳）の方187人が回答

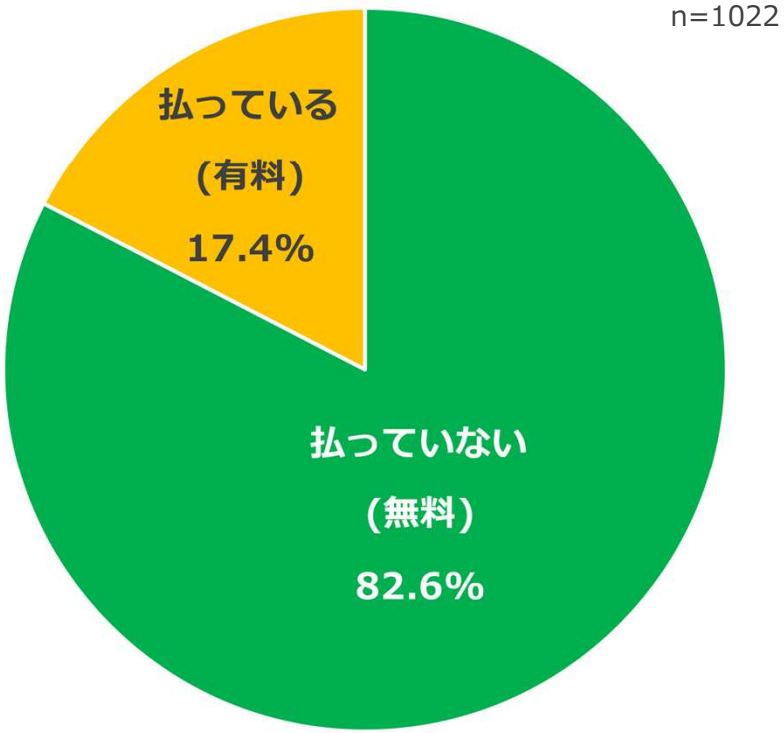
アンケート結果：住宅

どのような家に住んでいるか



※図表の数値は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、
合計しても必ずしも100%とはならない。

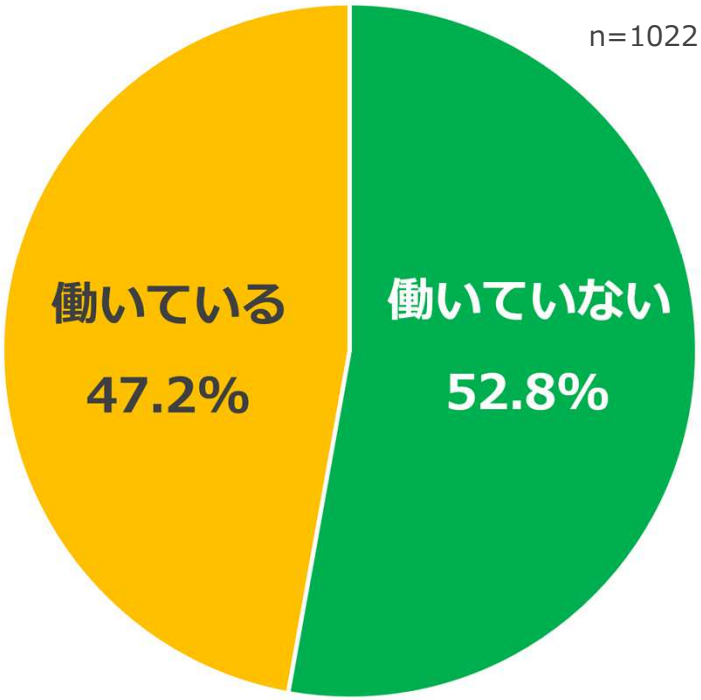
家賃を払っているか



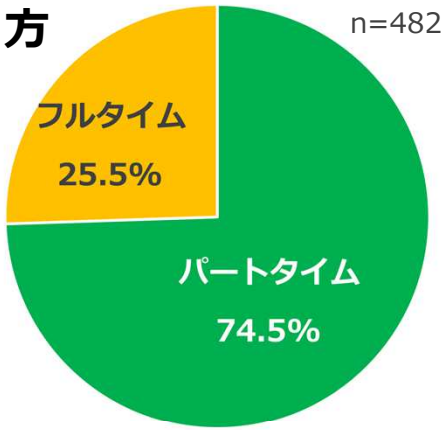
アンケート対象：日本財団の支援を受けている18歳以上のウクライナ避難民
アンケート収集数：1,022人　実施期間：2023年11月15日～12月31日

アンケート結果：就労

働いているか



働き方

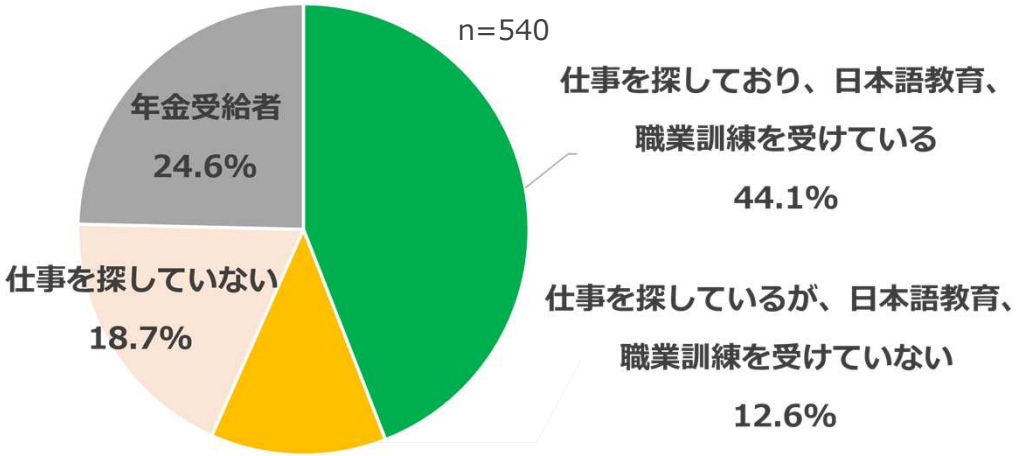


職種

n=482

販売・フード・アミューズメント	25.9 %
保育・教育・通訳	10.4 %
事務・アシスタント	9.8 %
美容・ブライダル・ホテル・交通	5.4 %
営業	5.2 %
クリエイター・クリエイティブ職	4.4 %
医療・福祉	3.1 %
技能工・設備・配送・農林水産	2.5 %
ITエンジニア	2.5 %
企画・管理・経営	1.5 %
建築・土木	1.2 %
その他	28.2 %

働いていない場合の状況



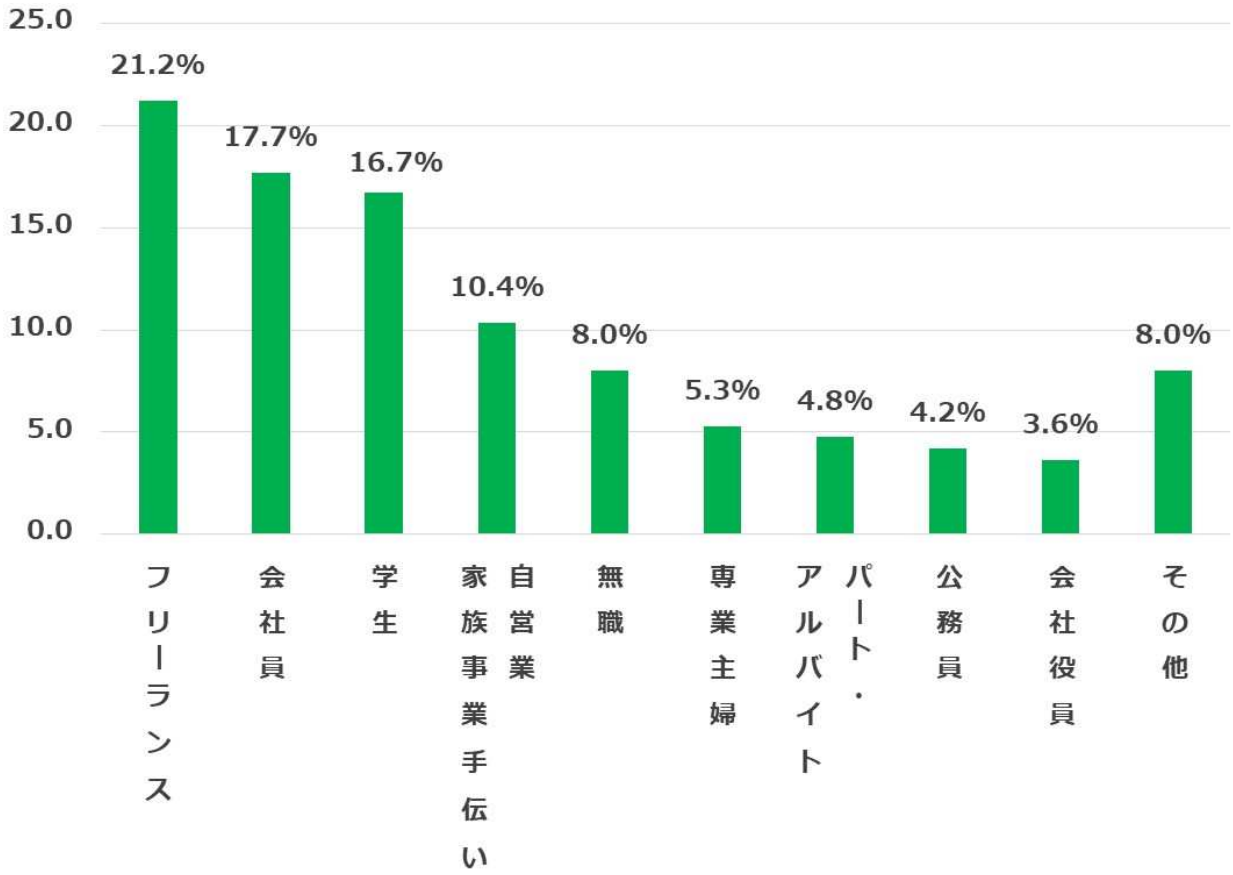
※図表の数値は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、
合計しても必ずしも100%とはならない。

アンケート対象：日本財団の支援を受けている18歳以上のウクライナ避難民
アンケート収集数：1,022人　実施期間：2023年11月15日～12月31日

アンケート結果：ウクライナでの状況

ウクライナでの職業

n=1022



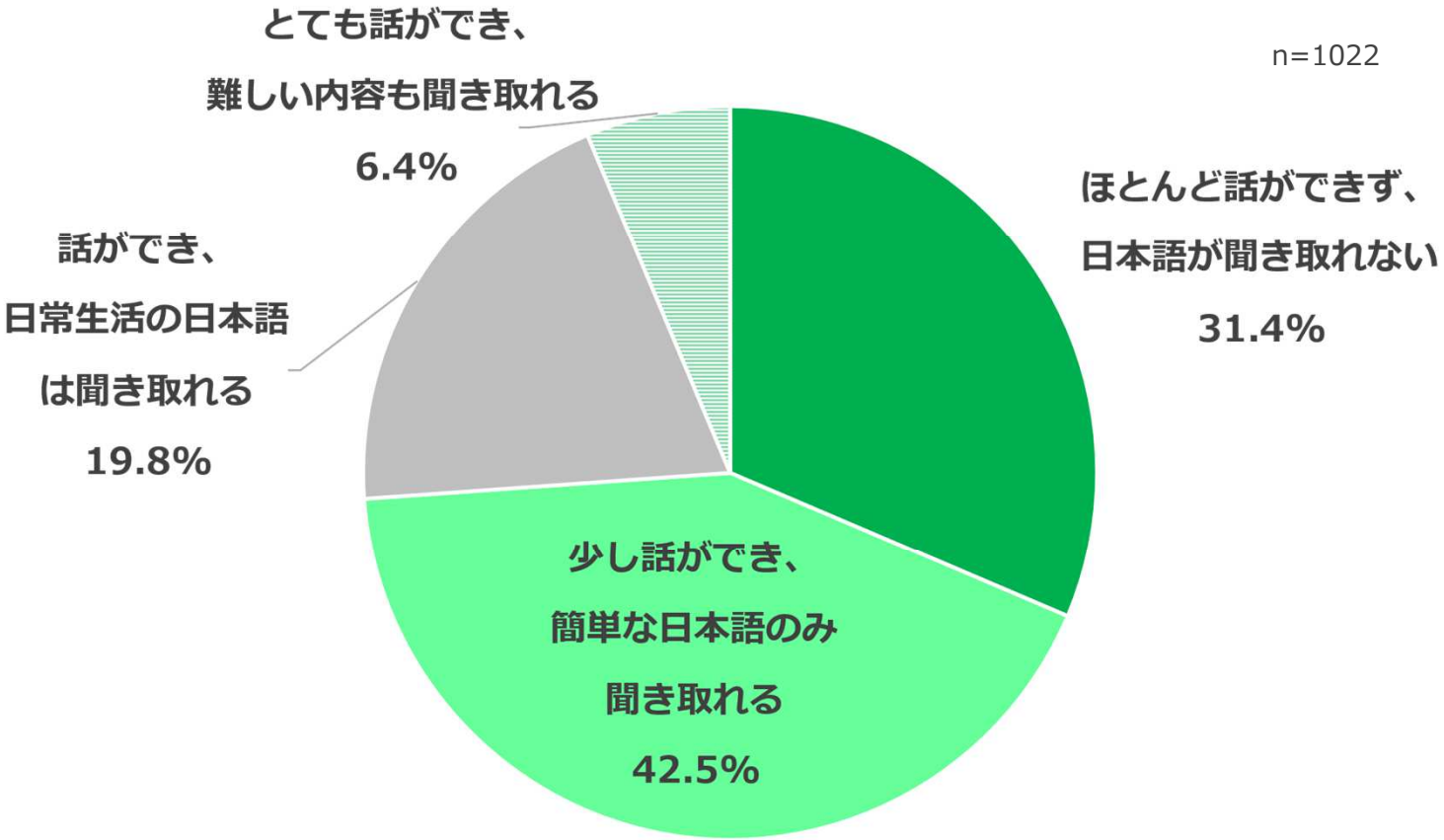
※図表の数値は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、
合計しても必ずしも100%とはならない。

アンケート対象：日本財団の支援を受けている18歳以上のウクライナ避難民
アンケート収集数：1,022人　実施期間：2023年11月15日～12月31日

アンケート結果：言語

日本語が話せるか

n=1022



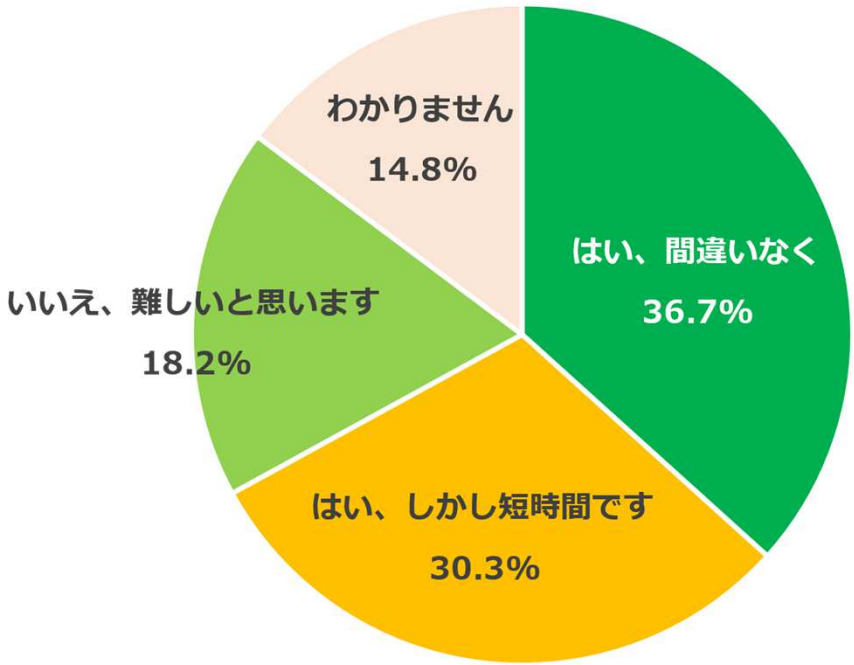
※図表の数値は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、
合計しても必ずしも100%とはならない。

アンケート対象：日本財団の支援を受けている18歳以上のウクライナ避難民
アンケート収集数：1,022人　実施期間：2023年11月15日～12月31日

アンケート結果：身元保証人

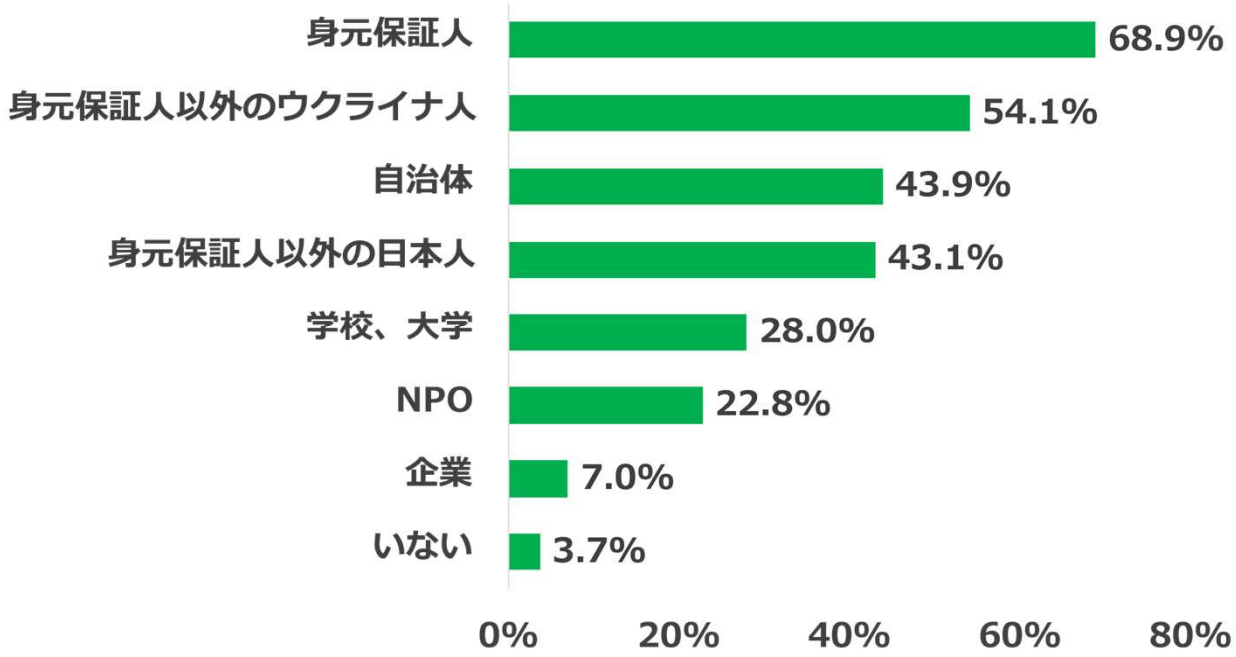
身元保証人にサポートする余裕があるか

n=1022



困ったときに相談できる存在（複数回答）

n=1022

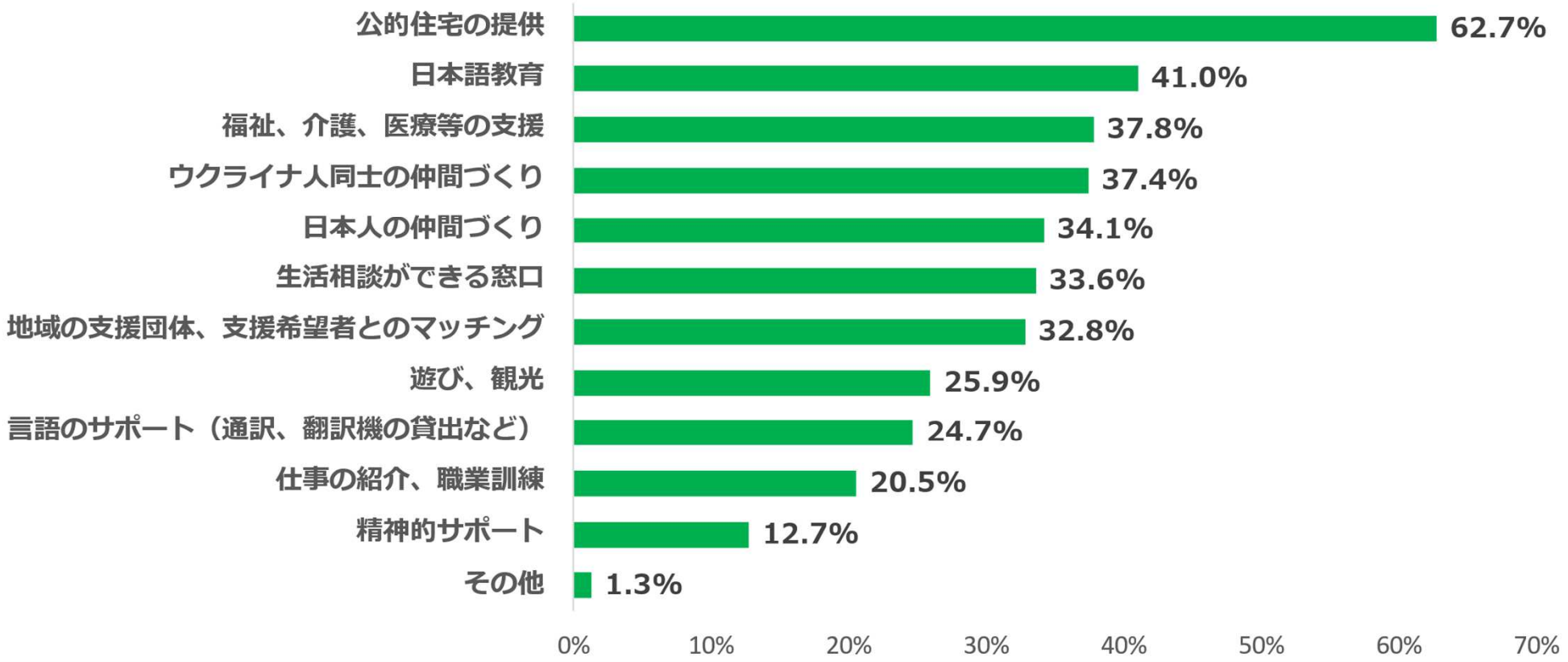


アンケート対象：日本財団の支援を受けている18歳以上のウクライナ避難民
アンケート収集数：1,022人　実施期間：2023年11月15日～12月31日

アンケート結果：受けている支援

給付金、生活物資の提供以外で、受けている支援は何ですか。

n=1022

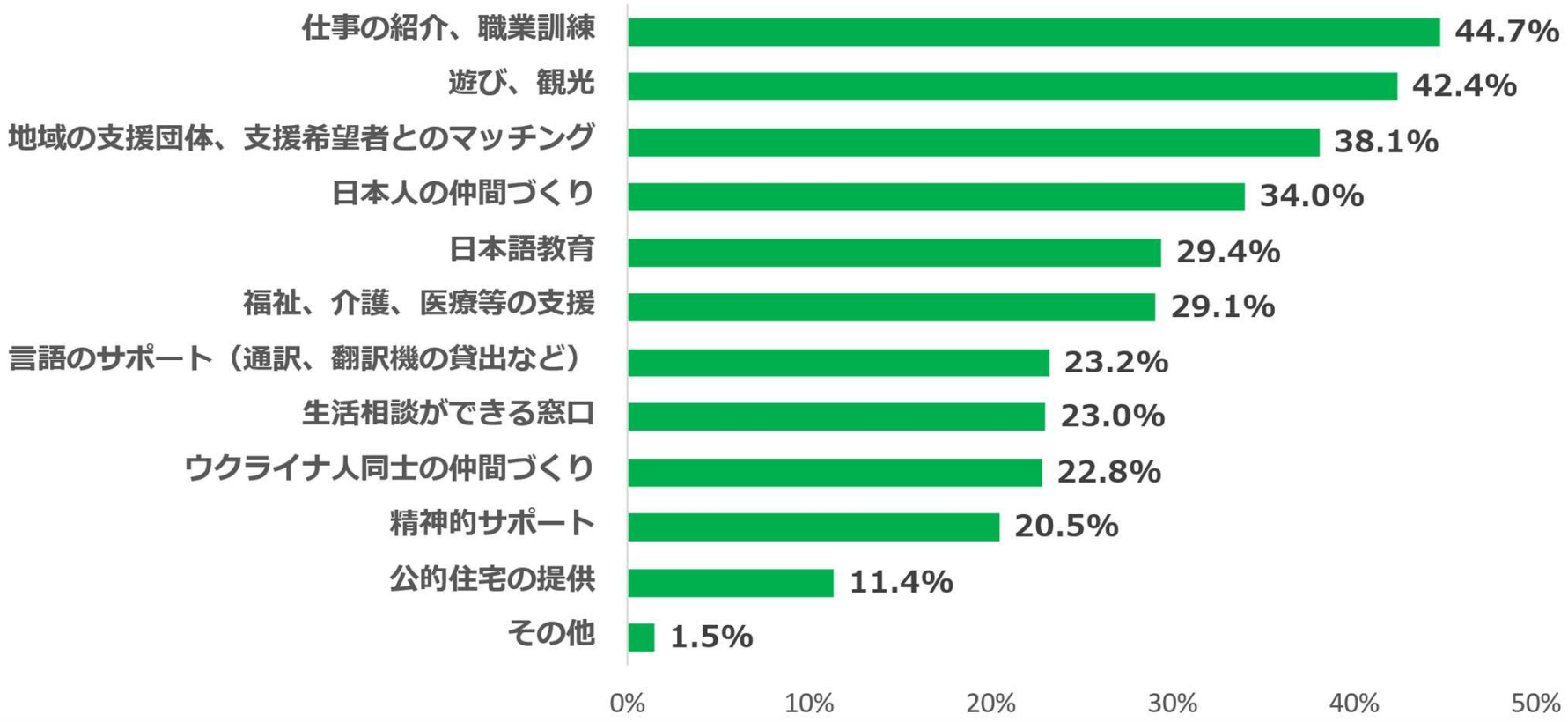


アンケート対象：日本財団の支援を受けている18歳以上のウクライナ避難民
アンケート収集数：1,022人　実施期間：2023年11月15日～12月31日

アンケート結果：必要な支援

給付金、生活物資の提供以外で、必要な支援は何ですか。

n=1022

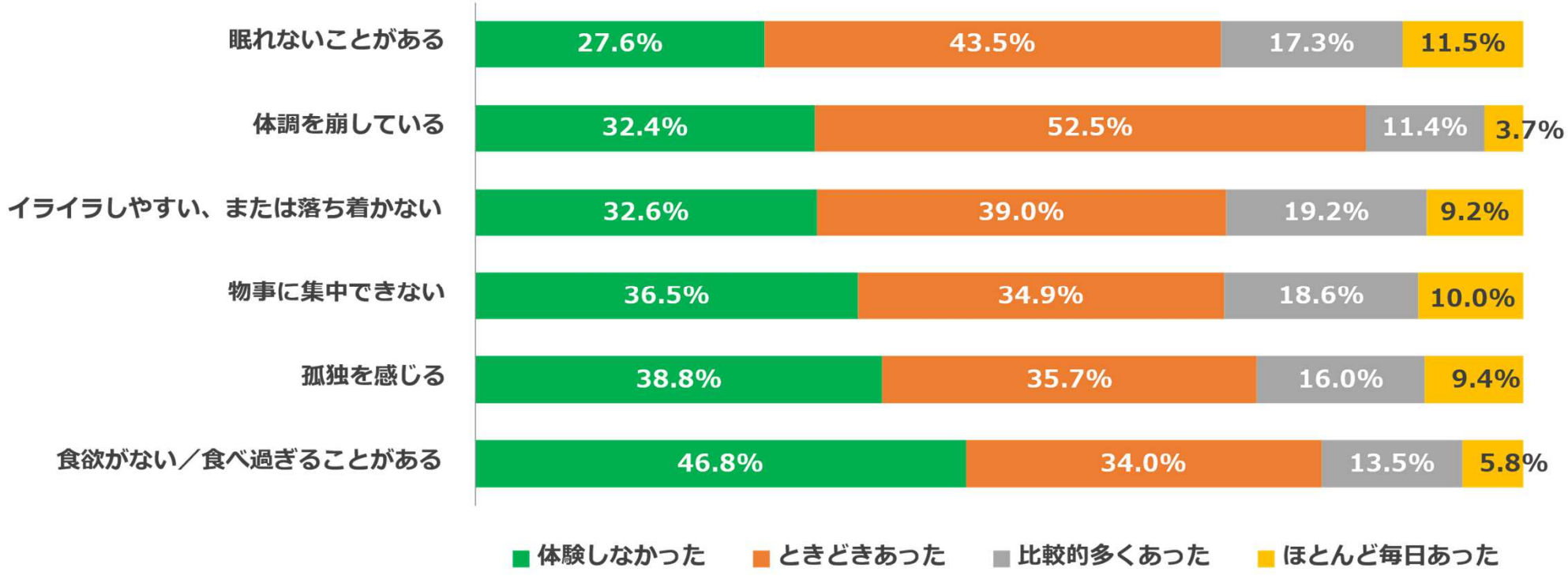


アンケート対象：日本財団の支援を受けている18歳以上のウクライナ避難民
アンケート収集数：1,022人　実施期間：2023年11月15日～12月31日

アンケート結果：本人の状態

ここ2週間の状況であてはまるもの

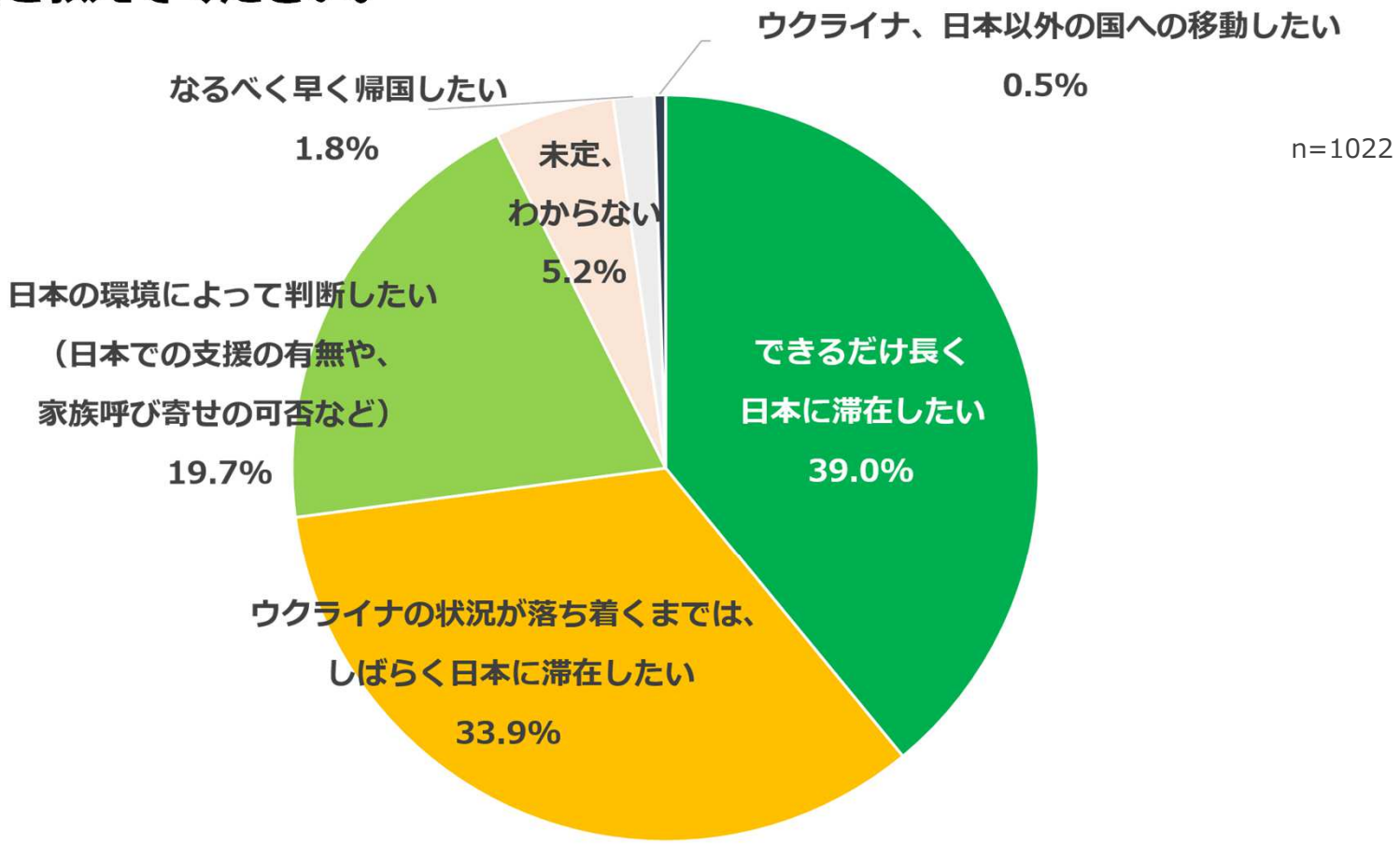
n=1022



アンケート対象：日本財団の支援を受けている18歳以上のウクライナ避難民
アンケート収集数：1,022人　実施期間：2023年11月15日～12月31日

アンケート結果：帰国意思

帰国の意思、希望を教えてください。



※図表の数値は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、
合計しても必ずしも100%とはならない。

アンケート対象：日本財団の支援を受けている18歳以上のウクライナ避難民
アンケート収集数：1,022人　実施期間：2023年11月15日～12月31日

アンケート結果：コメント抜粋

私は日本の生活がますます好きになっています。ここで**私は成長し、新しい言語を学び、友達を見つけるモチベーションを得ました**。私は日本の歴史と伝統に感心を持ち始めました。（女性／20代）

私は日本に住んで1年になりますが、正直に言うと、**日本で自分自身を実現したい**と思っています。私には日本人とウクライナ人の友達がいますので、今では**それほど孤独だと感じていません**。また、自分自身の目的を見つけることができたので、日本語学校で勉強して本当に良かったと思います。 （女性／20代／福岡県）

言語を学ぶことで、**日本人との付き合いやコミュニケーションがますます上手になっていきました。**
周りの人が何について話しているのか、看板や商品、広告に何が書かれているのかを理解し始めると、とても楽しい気持ちになります。（女性／30代／千葉県）

最近はやっと生活が安定してきて、**子どもも安心して本格的に勉強(受験勉強など)に取り組むことが出来ていると感じました。**
（女性／50代／大阪府）

快適に感じています。私たちをサポートし、私たちの生活にこのような良い機会を与えてくれる方々に感謝します。（男性／30代／千葉県）

日本に来る前、私たちは何が起こるかわかりませんでした。しかし、**私たちは、限りないほど温かく迎えられました。日本政府に感謝します。**（男性／70代／東京都）

私は日本の生活に満足しています。ここは穏やかです。**国と日本財団からの援助のおかげで、私たちは自分たちの命と子どもたちの命のために平和に暮らすことができます。**日本語学校で学ぶ機会をいただきありがとうございます。（女性／30代／愛知県）

※ウクライナ語の回答には自動翻訳を使用

アンケート結果：コメント抜粋（課題）

日本での生活は、**十分な日本語の知識がなければ非常に困難です。**難民支援の方法にも変化も見られる。**何が起こっているのか人々に説明してください。**（女性／30代／東京都）

なかなか日本に慣れていません。ウクライナでの生活との大きな違いを感じています。（男性／60代／大阪府）

ウクライナ戦争がすぐに終わらないことはすでに明らかなので、学校の日本語コースを終えたら、能力試験を受けて日本で就職するつもりです。保証人である夫がガンのため、**経済的援助が当てにならなくなっており、この時期の修学・就職支援は非常に重要かつ必要です。**（女性／40代／福岡県）

今は家賃を払う必要がないので、ウクライナからの給料で私と母を養うのに十分です。**でも、家賃を払う必要が出てきたら、日本で仕事を探さなければなりません。**そのためには、もっと日本語を勉強する必要があります（日本の学校に1年間通った後、JLPT N3に合格しましたが、母親の健康状態が悪化したため、学校を中退しました）。（女性／40代／大阪府）

次の教育をどうするかはまだ決められません。**ここで IT を学ぶことについて、さまざまな批評を聞きました。**現在、進学できる学校や大学を探していますが、それと同時に海外での機会も探しています。（男性／10代／大阪府）

※ウクライナ語の回答には自動翻訳を使用